

特集 ◇能登川町立図書館に  
学ぶ  
◇赤ちゃんを図書館に迎える  
ということ

特集 ■ 能登川町立図書館に学ぶ

探検隊は行く

シリーズⅦ

## どんな図書館が好きですか？

5月の連休の最中「けやき」会員4名が滋賀県の能登川町立図書館を訪ねました。1997年の開館以来、そのきめ細かいサービスを始め施設・運営面共に、地元住民はもちろん全国の図書館に関心をもつ市民からも評価の高い図書館です。またタイムリーなことにその2日後、今度は左京区内で能登川町立図書館長才津原哲弘氏の講演会がありました。

「身近な公共図書館は、どうあってほしいですか？本の種類と量、質の高いサービス、居心地のよい空間…」考える手掛かりとして能登川町立図書館についての2つの報告をお届けします。

### また行きたくなる図書館

#### 能登川町立図書館訪問記

#### ◇図書館に興味があるのなら

4月、「けやき」の事務局会議の後、「滋賀県の能登川町で井上ひさしさんと中村哲さんの講演と対談があります。能登川町立図書館の見学もできるし、どなたか一緒に行きませんか。」とのお誘いがあり、良い機会だと思い参加することにしました。というのは、何人かの方から「図書館に興味があるのなら、滋賀県に行くといいですよ。能登川の図書館に行ってみるといいですよ。」と伺っており、一度行きたいと思っていたからです。

高野からバス・地下鉄・東海道線と乗り継いで能登川駅に着きました。駅から西の方は、新たな開発が進んでいるようで、新しい道・新しい住宅・新しい公園が続く中、20分ほどで能登川町立図書館に着きました。

図書館は能登川町埋蔵文化財センター・能登川町博物館も併設された能登川町総合文化情報センターの中にあり、広い敷地で建物の周りには町のシンボルである大きな水車がゆっくり回り、芝生広場もありました。どきどきしながら建物に入ると、まずは広いギャラリーがあり、ここでは当日の対談に関連



児童書コーナー  
作者順に配架され、多くの本の表紙が見られる。仕切りが細かく本が倒れにくい工夫も。

した展示が見られました。その展示を見るだけでも1時間以上必要なほど充実していました。パネル板は可動式になっており、展示にあわせることができるようになっていました。

#### ◇子ども自身が選びやすく

いよいよ図書館です。第一印象は「広い」時間までもゆったりと流れているような感じがしました。早速、興味のある子どもの本のコーナーへ行ってみました。「なんてきれいなのでしょう。」明るいとか、きちんと整理してあるとか言うことではなく、表紙を見せて並べてある絵本がとても多いのです。絵本コーナーの周囲の本棚は棚が動かせるようになっていて、2段に並ぶ絵本の上の段の絵本はすべ

て表紙を見せて並んでいます。中に並ぶ書架も3段の内一番上は表紙を見せていました。絵本ですから、子ども自身が「絵で本を選ぶ」ことができ、いいなあと思いました。赤ちゃん絵本の書架もありました。高さは子どもがしゃがんだ背の高さくらいの優しい感じの書架で、やはりこれも上の段はきれいな表紙がずらりと並んでいます。ちょうど2才くらいの子が本を選んでいました。

◇それぞれのお好みの場所

右の奥は靴を脱いで上がる「はだしのコーナー」になっていました。窓の下の床には大型絵本が置いてあり、大型絵本はこどもが持ち運んだり、狭いところで読んだりする内に傷みが早く気になっていたのですが、ここならそのまま開いて見られます。部屋の真ん中には紙芝居の舞台が置かれ、自由に使うこともできるようです。その前には階段状の客席がありました。一番上のところで、女の子が2人本を読んでいた。客席の下はトンネルがありここでも読めるようになっていました。子どもたちはそれ

ぞれお好みの場所を見つけて、お話の世界を楽しむのでしょう。

井上さんと中村さんの対談の始まりの時間を気にしながらも図書館から離れ難く、また行ってみたいと思っていました。能登川町立図書館はどんな所ですかと尋ねられたら「文化の発信の場としての誇りを感じる図書館」とお伝えしようと思っています。

最後に「百聞は一見に如かず」是非行かれることをお勧めします。それも時間をたっぷり用意して。(田中)



コルクタイルの床に置かれた紙芝居の舞台と階段状になった客席が見える。戸を閉めて使えるようになっている。

「本物のいい図書館」とは

才津原哲弘氏（能登川町立図書館長）のお話を聴いて

◇一枚のちらしから

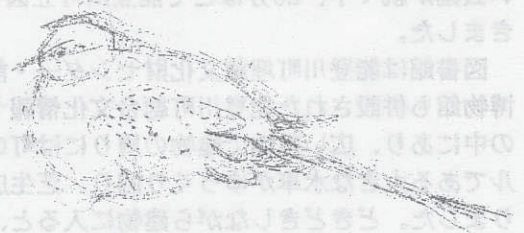
3月20日過ぎのある日、岩倉の論楽社から郵送されてきた封書に同封されていた一枚に目がとまりました。<「自殺をしたくなったら図書館へ行こう、いのちを育てる図書館づくり」才津原哲弘さん（能登川町立図書館長）>という、論楽社主催の講座、言葉を紡ぐの案内でした。「いのちを育てる図書館とはどんなところ？才津原さん？どこかで聞いたことのある名前だなあという程度の漠然とした動機ではありました。が、なぜか強い力に引っ張られるような感じで参加を申し込んでからほぼ1カ月後の5月3日、才津原さんのお話を聞いて参りました。

まず才津原さんの紹介を簡単にしておきましょう。1946年生まれ、図書館短期大学で勉強された後、千葉県八千代市立図書館、福岡市民図書館、福岡県荊田町立図書館を経て、準備段階から能登川町立図書館に関わっておられる方です。

5月3日のお話を聴くに先立ち、5月1日に短時間ではありましたが能登川町立図書館を訪ねてきましたので、具体的にイメージしながら聴くことができました。

◇三つの分類

現在、日本の図書館は次に三つに分類できるとのことです（図書館計画施設研究所代表菅原峻氏の分類による）。Ⅰ図書館という看板の下がった役所、Ⅱ無料の貸本屋、Ⅲ本物のいい図書館ですが、私たちの生活を豊かに潤いのあるものにしてくれるのはⅢとい





うことになります。しかし、それは全国の図書館の5%しかないとのこと。

では本物のいい図書館とはどういう図書館なのでしょう。それには

- ①誰もが利用できる
- ②利用者の要望に応じてくれる
- ③居心地がいい

などが関係してきます。①では基本的に歩いて行けるところにあるということ。具体的には1中学校区に1館必要です。その位の範囲にあれば行ける人がかなり多くなるでしょう。

②はリクエストにどれだけ応えてくれるかということが大切です。貸出冊数が少ないというのは、本を読む人が少ないのではなく、読みたくとも求める本がないのだ、ということも考えねばなりません。才津原さんが最初に勤務された八千代市の移動図書館で、利用者から求められた本を探し出して渡した時、図書館の魅力を強く感じられたそうです。その出発点での気持ちを今も大切に、実践しておられる方ようです。極端な例かも知れませんが、能登川で、病気のために図書館に行きたくとも行けなくなってしまった利用者に、本を選んで届けたこともあるという話を聞き、強い情熱を感じました。

### ◇居るだけで心が落ち着く

③に関して、能登川図書館ではいつまでも居たいと思わせる居心地の良さを感じました。高い天井と広々とした空間、畳のコーナーも含めた様々な形の読書コーナーがあり、それは人の目の届かない場所となっているため、自分の世界を創造することができます。また、なんと授乳室もありました。才津原さんのお話の後、能登川から来たという女性の「私は本が好きではありません。でも図書館はそこに居るだけで心が落ち着くのでよく行っています。」という言葉がそれを裏づけていると思います。そして当日閉会の後、才津原さんが「名前を聞かせて。もっと詳しく話して。……。」とその女性と膝をつき合わせるようにして話していたのがとても印象的でした。

### ◇私たちにできることは

では、今ある図書館を本物のいい図書館にしていくためにはどうすればよいのでしょうか。まず様々な図書館に実際に足をはこびイメージを具体的にふくらませること。そして自分達はどのような図書館を求めているのか、それには何が足りていて何が足りないのかを明確にすることが大切です。

性別、年齢に関係なく、誰でも知的欲求を満足させたいと思い、また生きる喜びを得ることを求めているのではないのでしょうか。それを満たしてくれる場所の一つとして図書館の存在は大きいと思います。ただ、図書館に慣れ親しむ機会があまりないまま日々過ごしている人も多いでしょう。そのような人たちも図書館を身近に感じ足を運べるようになるために、本好きの人間の集まりである友の会「けやき」にもできることがあると強く感じました。(増井)

## けやきの活動 04年2月～04年5月

2/5 「あかちゃんに絵本を」ボランティアが活動開始	3/27 図書館おたのしみ会	5/上旬～ ニュースレターNo.16編集
以後毎週木曜日10:30～12:00絵本コーナーで活動	絵本コーナーの飾りをつくる会	5/13 絵本学習会
2/9.16 ニュースレターNo.15印刷・発送	4/8 ボランティアの絵本学習会開始	「あかちゃんに絵本を」ボランティア会議
2/28 図書館お楽しみ会	「あかちゃんに絵本を」ボランティア会議	5/24 図書館おたのしみ会
3/15 子ども読書の日記念行事について図書館と打ち合わせ	4/20 子ども読書の日行事人形劇合同練習	5/31 ニュースレターNo.16
3/20 高月町立図書館長明定明人氏講演会聴講	4/24 子ども読書の日記念おたのしみ会・工作会	活動報告・総会案内印刷発送
	5/1 能登川町立図書館見学	※・図書館主催行事は、協力
	5/3 能登川町立図書館長講演会聴講	・原則毎月第一月曜日に事務局会議
		図書館とのミーティング

## 図書館に赤ちゃんを迎えるということ

前号で「赤ちゃんにもやさしい図書館づくり」を特集、左京図書館の新しい赤ちゃんへの取り組みを紹介しました。まだ余りなじみのない赤ちゃんに対する図書館サービスへの理解の一助として、図書館情報学の立場から基本的な知識と考え方を紹介します。



### 図書館は赤ちゃんにも必要な存在

左京図書館でも、ようやく赤ちゃんへのサービスが始まりました。赤ちゃんの成長のことを考えても、図書館の果たすべき役割から考えても、乳幼児サービスは公共図書館における欠かせないサービスのひとつですが、課題も抱えています。

#### 豊かになる赤ちゃんの世界

人が初めて出会う本は絵本です。絵本の向こう側には、幼い読者にとって未知の世界がはてしなく広がっているのです。L・スミスは絵本の意義について、A・C・ムーアの次のような考えを紹介しています。小さい頃に絵本の中でさまざまな国の子どもたちと出会う機会があった子どもたちは、大きくなってから異文化と出会っても、自分の理解できないものとはならないので、他国の人と心を通わせることができます。また、絵本の影響ははかりしれません。なぜならば、すぐれた絵本はゆるがない真実をそなえているからです。(注1)

私自身、息子に絵本を読みながら、その時間が息子の中で幸せな記憶として残って欲しい、そして、未知の世界への興味を持ち、自分の知らない世界を疑似体験することで他人の立場や気持ちを理解し、そして何よりも、困難を乗り越える精神的な強さを持てるようになって欲しいと願っています。読書の世界にはそれだけの力があると多くの人々が書き、また私も同じように感じてきたからです。

#### 図書館の社会的責任

そして図書館は、赤ちゃんが本と出会う機会を提供する社会的責任を負っています。なぜならば、赤ちゃんも子どもも大人も、図書館サービスを受ける平等の権利を持っているからです。そのことは、図書館の責務を示した〈図書館の自由に関する宣言〉(1979年改訂 日本図書館協会)にも次のように明記されています。「すべての国民は、図書館利用に公平な権利をもっており、人種、信条、性別、年齢やそのおかれている条件等によっていかなる差別もあってはならない。」

また、〈子どもの権利条約〉13条では、〈市民的及び政治的権利に関する国際規約(国際人権規約のB規約)〉19条2項と同様「表現・情報の自由」が保障されています。これには、「あらゆる種類の情報及び考えを求め、受け及び伝える自由」が含まれており、図書館が情報や考えの記された資料を提供する機関である以上、その権利を守る責任を担っていることは明らかです。子どもにも大人と同じように知る権利が保障され

ており、図書館がそのために果たす役割は大きいからです。

#### 広がるサービスと今後の課題

そんなわけで、赤ちゃんへの図書館サービスは意義があり、かつ図書館の大切な任務のひとつです。日本でも、練馬区の保健所文庫が区立図書館の支援を受けて約20年前から乳幼児サービスに取り組んでいますし、東村山市立図書館でも1980年代から赤ちゃん向け絵本リストに子育て情報を加えた冊子の配布など乳幼児を視野に入れた児童サービスを展開してきましたが、全国的に見ると数少ない存在であったようです。しかし、子ども読書年であった2000年にブックスタート(注2)が日本に紹介されたことや2001年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が制定されたことをきっかけに、2001年にはたった12市町村で開始されたブックスタートが2003年度末には582の自治体で実施されるなど、各地の図書館で赤ちゃんに対するサービスが行われるようになりました。

その中で、新たな課題が生まれてきています。例えば、スペース不足で読書や調査をするため静寂を求め利用者の場と声を出すお話会の場との共存が難しいこと、職員の養成・自己研修が不十分なこと、地域社会や保健所との連携方法を模索中であることなど、その図書館の置かれている状況によってさまざまですが、赤ちゃんへのサービスはこれらの問題を乗り越えて実施していく価値があります。図書館の主役は利用者一人一人であり、赤ちゃんもその一員なのですから。

(京都ノートルダム女子大学 岩崎れい・図書館情報学)

注1：リリアン・スミス著『児童文学論』岩波書店1964 p.202

注2：子どもたちが本に出会う機会を持てるように、図書館と他の機関が協力して、乳児に絵本をプレゼントしたり、その親を支援したりする活動で、1992年にイギリスで開始された。地域によって活動内容はさまざまである。

\* \* \*

左京図書館でも、スペースに限りがあり、さまざまな目的のサービスを同じ空間でどのように共存させていけばいいのか、という悩みがあります。けやきではこれからも引き続き考えていきたいと思えます。

また、新たに図書館を建てる際には、このような課題を踏まえた施設づくりが望まれます。(けやき編集部)

松井館長補佐、司書の原田さんも  
熱演の「番ねずみのヤカちゃん」



## 子ども読書の日記念 お楽しみ会

4月24日、子ども読書の日記念の行事としてお楽しみ会が開催されました。普段のお楽しみ会に協力しているけやき会員に、下鴨小、松ヶ崎小、養徳小のPTAボランティアの方々も加わって、にぎやかなプログラムとなりました。

## 新館長さん

どうぞよろしく

左京図書館の新築移転当時から館長を務めてこられた増田邦雄氏が転出され、新たに浅田勝氏が着任されました。浅田館長から、けやきにメッセージを頂きました。

## 皆さんはじめまして

この四月一日付で岩倉図書館から転勤してまいりました浅田勝と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。さて、左京図書館は、平成十一年五月十四日に新築移転して六年目を迎えました。この間、平成十二年五月十五日から地域館ではじめて、夜間・祝日開館を実施しました。また、平成十四年十月十日からは、新コンピュータシステムを開始、京都市図書館十九館のネットワークを生かす利用サービスを実施するなど、「利用者にとって、使いやすく、居心地のいい図書館づくり」が進められてきました。左京図書館は、資料の収集、保存、本の貸出だけでなく、地域での生涯学習の拠点として、展示会・行事等を通じて、情報発信していく中で、読書の大切さ、親子のふれあいや参加者同士の交流の場としての取り組みに力を入れています。こうした取り組みの取り組みを実施し、成果が上げられていくのにも、図書館友の会「けやき」の方々のご支援、ご協力の賜かと思っております。今後、さらに、地域の方々の力添えをいただき、世代を超え、身近な学びと交流の生涯学習の場として、また、家庭の本棚として、もっともっと気軽に利用していただける図書館を目指し、地域に開かれた図書館活動の充実・推進に向け、取り組んでまいります。

## げやきの 本棚 16

わたしの  
おすすめの本

### 月夜野に



森下真理作  
国士社 00年

あたりまえのことの大切さに、改めて気づきました。最近忙しくて本を読む時間もなかったのですが、一冊の本からまた少しエネルギーをもらえた気がします。  
(会員S・新洞)

### なぞとき美術館

ミクルスウエイト構成  
フレール館 00年

みなさんは絵の鑑賞をする

とき、どこをどんなふうに見ていますか？この本はゴッホやブリューゲルなどの絵をとりあげて、細部についてのなぞなぞを出すことにより、子どもたちが興味を持って絵を鑑賞できるように手助けをしています。こんな絵の見方もあるんだなと気づかせてくれる一冊です。  
(M・Hさん・左京図書館)

### ザ・プロフィール

利益はどのようにして生まれるのか

スライウオツキー著  
ダイヤモンド社 02年

ビジネスパーソンなら誰しも興味を持つ利益について、具体的な事例をもとに徹底的に分析した成果を、対話形式でわかりやすく解説した本である。どの企業も利益を上げ続けられない限り存続できないため、成功した企業は精緻な利益モデルを持っており、感心させられる。本書は読みやすくかつビジネスの奥深さを教えてくれる。

### だからあなたも 生きぬいて

大平光代著  
講談社 00年

自殺未遂や非行という過去から立ち直り弁護士になった著者の「強さ」以上に、彼女のかまわりの人たちの「あたたかさ」に、はっとさせられます。「ひとを信じる」という

(Y・Mさん・下鴨)

## けやき学習会のお知らせ

### 講演会 今、市民が願う図書館とは

今、公共図書館は自治体の財政難などを理由に、施設・人・運営面の全てに渡って全国的に厳しい状況にさらされています。左京図書館が移転開館5周年を迎え、図書館友の会けやきも活動を始めて5年過ぎた今、もう一度初心に立ち返って、「私たち市民は図書館がどのようなものであって欲しいのか」を考えてみませんか。多数の御参加をお待ちしています。申込は不要です。

講師：岩崎れい氏（けやき会員、京都ノートルダム女子大学専任講師・図書館情報学）

日時：6月14日（月）午前11時～12時30分

場所：左京合同福祉センター3階会議室（左京図書館の上階）

### 図書館友の会けやきの仲間になりませんか

知りたい、調べたい、本の世界を楽しみたい  
そんな私たちの望みをかなえ、

一人一人の世界を豊かにしてくれる場所。  
それが私たちの願う図書館です。

左京図書館が今後もこのような市民みんなの図書館としていきいきとあり続けるために、私たち市民利用者は何ができるのか考え、活動したいと「けやき」を作りました。図書館のスタッフとともに、左京図書館を支え、育てていきたいのです。

#### こんな活動をしています 一緒にしましょう

子どもたちに絵本を読んだり、人形劇やおはなしも。

赤ちゃんの本選びのお手伝いや絵本についての相談も。

映画上映会など左京図書館の催しに協力したり、

「けやき」のテープ録音や、絵本コーナーの壁面を飾る作品を作ったり。

図書館の現状を調べたり、提案も。 ニュースレター「けやき」を発行。

ぜひあなたの思いを形にして

図書館友の会「けやき」の仲間になってください。

◆入会希望の方は、年会費500円をそえ下記事務局または郵便振込口座にお申し込みください。

事務局 京都市左京区高野東開町1-23 26-101 永井方

TELEAX 075-721-2625

郵便振込口座 口座番号 00920-8-156914番

口座名称 図書館友の会 けやき

年会費はニュースレターの印刷および郵送費の一部に充当します。

◆活動費のカンパも歓迎します。直接または上記の振込口座をご利用ください。

### けやき情報板

#### けやき定期総会のお知らせ

日時：6月14日（月）

総会 午前9時30分より

学習会 午前11時～12時30分

場所：左京合同福祉センター3階会議室  
（左京図書館の上階）

会員のみなさんには活動報告・議案書等、事前にお届けしています。

新たに仲間になってくださる方、ぜひ総会にご参加を！総会に引き続き上記で案内の学習会を開催します。

総会に参加希望される方は事務局までご連絡ください。

#### 絵本の学習会が始まりました

「あかちゃんに絵本を」ボランティアの活動が始まったのを機に、毎月第二木曜日1:30～図書館の上の会議室で開いています。関心のある方は事務局まで。

#### 読者の声を！

ニュースレター「けやき」へのご意見感想をお寄せください。また「地域の読書サークル紹介」「けやきの本棚」への投稿もお待ちしています。

（なお掲載についてはけやき編集部の判断におまかせください。）

### 編集後記

▽旅先で立ち寄った図書館。児童コーナーの古くて小さな丸机の上に、写真本が立てて置かれていました。その鮮やかな表紙が惹かれた。思わず「ひとしずくのうき」という本をおすすめするよ、この本をもちが伝わってくる展示でした。6年間、館長として左京図書館の発展と充実に向けて尽された増田邦雄氏が、四月から右京図書館設立準備室に転出されました。利用者の方にも熱心に耳を傾け、けやき紙面でも度々「市民に開かれた図書館」への熱い思いを語って頂きました。新右京中央図書館、期待しています。

◇けやき 第16号 2004年5月31日

◇制作 図書館友の会 けやき ニュースレター編集部

題字 高野のYさん タイトルバック 岩倉のSさん

カット 高野のHさん

◇発行 図書館友の会 けやき

京都市左京区高野東開町1-23-26-101永井方

TEL/FAX 075-721-2625